

政治学概論 II

(10) 国際政治 = 日本をめぐる国際関係

国際関係を学ぶうえで大切なこと

- 国際政治 = 政府なき政治（中央政府が存在しない）

国際法は国内法に優先する拘束力を持たない（国際司法裁判所）

国家主権の壁（人権問題などでの「内政干渉」という反発）

- 国家間の対立（各国が利益を追求）が国際政治の本質 = リアリズム
話し合いによる国際協調は可能である = リベラリズム的観点

- 国際連合（国連）はじめ国際機関の役割の増大

国際協調を必要とする地球的課題（環境、飢餓、難民等々・・・）

力の政治と「世界連邦」的理想

- 国家間の格差「人口の多い国（大国）」「少ない国（小国）」
経済力・軍事力の格差
- ⇒パワーポリティクス（力の政治）という現実（大国主導）
- 戦争による犠牲の反省から国際連合⇒やがては「世界連邦」へ？
- EU（欧州連合）の「実験」＝1993年発足、2021年で27カ国
（フランス・ドイツが中心）
- 2020年イギリスのEU離脱（国民投票2016年）＝Brexit
- 東南アジア諸国連合（ASEAN）

日本をめぐる国際関係（1）

■日米同盟（日米安全保障条約）という基軸

= 日本政府は世界最大の自由民主主義国であるアメリカとの経済的なつながり、安全保障上の関係を最重視した外交の方針

⇒「対米追従」との批判（在日米軍基地、ベトナム戦争、イラク戦争） ⇔ 東アジアの難しさ（自由民主主義体制の日本）

■中国の台頭と日本（21世紀前半で最大の懸案か）

世界最大の人口と巨大市場を持つ中国、軍事力の増強と
「海洋進出」 = アジアの不安定化

日本をめぐる国際関係（2）

■日韓関係と北朝鮮問題

韓国との歴史問題による対立（1990年代～）

国交がない北朝鮮との問題（米朝関係、中国という「後ろ盾」）

※朝鮮半島の統一はあるのか？（ドイツとの違い）

■ロシアと北方領土

（ソ連時代からの懸案）国交はあるが平和条約はまだ

北方四島は日本に帰属するとの主張⇔第二次大戦でソ連領になったとの主張 ビザなし渡航・墓参・経済協力 膠着状態

（※韓国との竹島問題、中国との尖閣諸島問題）

日本をめぐる国際関係（3）

■冷戦（米ソのイデオロギー対立）＝ある種の秩序

冷戦後（1990年代～地域紛争、民族紛争の多発）

国連PKO（平和維持活動）の活用、日本の参画

■自由民主主義国　V S　非民主主義国（専制・権威主義）

中国の台頭への世界的警戒感、アメリカ・EUを中心にした
対抗（包囲網）勢力にオーストラリア、インド、日本なども

■日米同盟と日中友好の両立？「東アジア共同体」遠く

日米安保から国連を中心にした多国間安全保障の枠組みは？

調べてみよう

- 授業で中心的に紹介した隣国（アメリカ、中国、韓国、北朝鮮、ロシア）以外の国で、関心のある国を選んで、歴史的に日本とどんな関係を持ってきたのか、見てみましょう
- 国連安全保障理事会ほかユネスコ、WHO、WTOなどの国際機関がどんな役割を持っているのか、確認しておきましょう